

昭和三十一年五月二十六日招集
第二回市議會臨時會會議錄

昭和三十一年館山市議会第二回臨時会会議録

昭和三十一年五月二十六日招集

議長(石井潔君) 本日より出席議員数 二十九名 (こより) 等
二回臨時会を開会いたします。

議長(石井潔君) 本臨時会、議案説明のため、田村市長、
小虫助役、完戸総務課長、唐沢保険課長、吉田商工水産
課長、新井建設課長、高木農産統計課長、山谷秘書
課長、長谷川福祉事務所長、羽山厚生課長、黒瀬税務第
一課長、山口税務第二課長、伊藤戸籍課長、真田収入役
代理、鵜沢庶務課長、関監査委員、以上出席を求め
まいたって御報告いたします。

議長(石井潔君) ついで会議録署名人、決定を行います。
お諮りいたします。従来例に従い、まして議長より

指名により、決定いたしますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よって十三番議員鈴木孝君、二十六番議員田中祿郎君以上とおり決定いたします。

議長(石井潔君) ついで会期を決定を行ないます。本臨時会が会期につきまゝでは、会議規則を定めるところにより――

議長(石井潔君) 申し上げます。ただいま出席議員数三十三名、休憩前に引き続いて会議を開きます。議長(石井潔君) 先ほど協議会におきまして御意見伺いました議席の変更をいたしたいと思ひます。

本日の議事に先立ちまして、議席の変更を行いたいと思ひますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よつて、会議規則第二條第一項の規定により、クジで議席を変更すること決定いたしました。クジ引き前にお諮りいたしますが、従来例によりますと、一番席は議長たるもう、三十六番席は監査委員たるもう、席となつておりますが、改めて十八番席を議会運営委員長席にいたしたいと思います。御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議ないものと認めます。よつて、一番席、十八番席、三十六番席以上とあり決定さした。こゝより、議長および監査委員および議会運営委

議長、議席を除いて各議員の議席変更のクジを行ないます。

なお申し上げます。ただいま議場にお見えにならぬ議員の方のクジは隣席の方が代ってお引き下さるようお願いいたします。一番席の方より順次書記を持参するクジをお引き下さい。

議長（石井潔君）ただいまクジの結果を事務局長をして朗読いただきます。

事務局長（高梨清一君）一番席 石井潔さん 二番 高橋さん 五番 福岡さん（順次全員報告する）三十六番 嶋田繁さん 以上でございます。

議長（石井潔君）以上となり、決定いただきまして、暫時休憩いたします。

議長（石井潔君）休憩前に引き続いて会議を開きます。
に代います。議案を配付いたさせます。

議長（石井潔君）議案の配布も今はございせんか。配布も
なしと認めます。本日日程はお手許に配付う日程
表とおりであります。日程第一報告第五号。報告
第六号。報告第七号。報告第八号一括上程いたします。
議会運営委員会意見をお求めましたところ。本日一日という
ことでありますので、お諮りいたします。会期を一日と定
めることに御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よってさう決定
いたします。こゝ宣告をもって会議規則第五條第二
項の通知に代えますので、御了承願います。

議長（石井潔君）——ばらぐ休憩いたします。

（書記朗読）

監査委員（関武夫君）報告第五号について御説明申し上げます。
本年の三月二十七日に本市の工場、糞、消毒所、火葬場、
水道等につきまゝて、事業運営の状況を監査いたしました。
まゝたうで、その結果について報告をいたします。

まず、工場につきまゝては、ここに掲げましたように収支
差引きまゝで、二月末までに三十五万七千九百円余の黒
字となっております。と場内、諸設備は毎年追々整
備さ小まゝて、大分清潔になりまゝた。ただ、汚水、処理
と、臓物の貯溜槽、この施設が非常にまだ不完全で
ありまゝて、これは相当に予算を要することと思ひます。
でき小ば、この改善をさ小ることが望まゝいと感づいたうで、

ございます。つぎに消毒所につきまゝては、建物そのものがもう古いので、消毒所そのものを消毒しなけいばいけません。ないんじゃないかというふうな感ずるほどで、たが、とにかく、なかりボイラー、消毒釜等も非常に古くなりまゝて、ことにボイラーは危険性があると思ひまゝて、厚生課長さんに早くこれを修理された方がよろしい、ということをお願い上げてみた。執行部の方でも、すでにそれを十分に自覚しておりまゝて、むしろ修理よりも入れ替へたいという当局の希望でございまゝた。消毒釜も三十一年度において修理をしたい、ということでもございまゝた。それから火葬場につきまゝては、三十年の年度はじめに重油の火まどを修理いたしまゝて、この方は完全でございすが、ふだん重油の火まどを使つておりまゝで、たが、いときに、たまたま薪の火まどを使用するわけでもございすが、この方が火まどより火入口

とくに鉄のふたが曲っておりまして、それから熱がもれる。従つて薪が余分にいるというふうなこともございまして、で、この方は至急修理されるよう希望いたします。なお、相当予算を必要とするわけですが、できうれば、理的には、葬送者の待合室がほしいと感じまして、で、そのように希望しておきまして、水道につきましては、旧海軍のあとを市が管理しておるでございしますが、非常に清潔な感じがいたしまして、ただ水をろ過するに使います砂を洗つてまた使うわけなんです。現在使うのには、差支えありませんけれども、古い砂がたくさんうず高くつまれてありまして、賃金ともに予算を使い切つてしまつたので、年度内には、洗うことができないんだという現場の説明でございまして、そういった予算について、こんご十分考慮していただいて

常に砂をきかいておいてほしいということも希望いたしたうでございします。豊房水源池のモーターの件でございしますが、これも郡よりもうを借り受けて使っておるわけなんであります。あそこう使用水量は附近の民家一般家庭二十三戸だと思いました。それと小學校へ使っておるわけなんでその程度う水の量からすれば、現在二十馬力はもったいんで、五馬力でも十分でございします。二十馬力の現在のモーターを使っておりますと、基本料金——

料等々五馬力にいた場合を比較しますと、一カ月約五千円近い節約ができるということでございます。ただこれは郡よりもうであります。市で勝手に切替えるわけには参りません。いったん二十馬力をもし得れば、市が郡から払い下げを受けて、適当なときに他へ売って、その金で五馬力のモーターを買って使ったらどうかと私は、

こう感得たうでございます。このことが、できますれば、そのうな合理化が望まういふでございます。収入状況につきまうてう詳細な数字はこゝ表によつて御参照いただきたいと思ひます。以上で――

――に關する監査う報告を終りまして、つぎに例月検査う報告に移ります。まず、報告第六号でござりますが、四月う十三日に実施いたしまう昭和三十年度四月う例月検査報告でございます。――般會計におきまして歳入一千百五十三万円余であります。こゝ内訳は、市民税が二百万円、固定資産税が二百五十万円、たばこ消費税の二月分として百十二万二千十円、それから電氣ガス税が八十四万円等が主なるものでございます。税外収入う一千六十五万円余り内訳は、地方税交付税として五十万二千円、それから臨時地方財政特別交付金として三百八十三万

一千円、これが三十年年度の最後、受け入れてございまして、
そのほかに使用料、手数料で百三十万円、国庫、支出金が
二百六十万円、それから寄付金、船形漁港、分として五十
万円等が主なるものでございまして、市税の欠損額が
二百八十二万四千円という数字になっておりますが、この三
月中に——まゝたは、二十二万七千三百三十三円でござ
いまして、二十四年度分のものでございまして、市税、収
入未清額、五千百三十一万五千三百十九円は、正味、
いわゆる滞納でございまして、歳出につきまゝては二千
十四万五千円、余りうち、
おといしましては、土木費、二百五十万円、でございま
す、このうち、
八十万円、船形漁港、維持費、
二十万円、修築工事、
負担金として、百万円等を
納めております、教育費が四百六十万円、でございまして

四中の校舎改築費として百九十八万三千円、支出したことになります。歳入、歳出、差引きまゝで一千二百五十七万二千五百九十一円、一時借入金より一千六百二十三万七千七百八十七円は、千葉銀行から一千万円、恩給組合から残りの六百二十三万七千七百八十七円でございます。

現金保管高は三百六十六万四千五百九十六円でございます。いま、つぎに特別会計に移りまして、公益質屋でございますが収入が——一番右の一時借入金

でこの月に四十万円返済しております。これは果から借入したものを返したわけでございます。貸付現在高

——二百十三万八千三百——五月、この内訳は船形が百二十万二千五百七十円、富崎が四十三万五千八百十五円

次に国民健康保険でございますが、そのつぎは豊房

診療所と双方、この表によつて御了承いただきたいと思
います。以上で第六号を終りまして、第七号、報告
に移ります。

五月十三日が日曜でございまして、十四日に例月検査
を施行いたしました。まず、昭和三十年度、分でござい
ますが、歳入におきまして、市税、収入が五百六万三千
円、税外収入が六百三十三万。市税の内訳は市

民税が百七十万円、固定資産税が三百万円等が主な
ものでございします。税外歳入は、国庫支出金が三百六

十万円、それから寄付金として百五十六万九千円、
でございしますが、国鉄から三十五万円、それから、館山港、

分が二十万円入っております。なお、館山高校、商業

分として六十五万九千円もこの期間に受け入

れらしております。欠損額は、前月と同額であります。

て四月中にはふえておりません。市税、収入未済額
 滞納額は四千七百四万二千九百八十円でございます。

一千四百四十一万

のは土木費、二

百十万円でありまして、船形漁港の修築、負担金が
 五十万円、館山港の分が百万円、教育費が四百十万円
 でありまして、そのうち四中の校舎の改築費が百五十
 万円、

歳入歳出差引きまして、一千五百五十

八万七千五百八十八円、一時借入金は前月と同額でありま
 して、一千六百一十七万八千七百七十七円でございます。この期

間に昭和三十一年度

編入分として三万五千六百六

十八円を記録しておきました。これは三十一年度

金にふれるべきものを千葉銀行の方で誤ま

て三十一年度（編入）してしまつたものでございます。

現金保管高が六十八万五千八百九十七円でございました。

つぎに公益貸屋でございますが、支出うところで貸付前渡金で~~井~~三 七千二百二十九円とあります。

これは貸付前渡金を出納員に渡して処置しておるうでございしますが、年度末で出納員の手許にぞだけけ金に余りまゐつたので、これを収入役の方に返還したものでございします。国民健康保険につきまゝて歳入り保険料より収入未済額七百二十五十一円。これは三十九年度の正味未納額でございまして歳出におきまして三百七十六千円余出ておりますが、その前に歳入のその他収入に二百万円余入っておりますが、これは大体が国庫から補助金でございします。歳出に移りましては、とくに申し上げることはございません。つぎに豊房診療所につきまゝても、この表によつて御了承をいただきますと思います。

こゝで報告第七号を終りましてつぎに第八号でございます。こゝも五月十四日に三十年度の分と同時に三十一年度の分を実施したわけでございます。

年度はじめることでありまして歳入・歳出も大きな数字はございません。市税におきまして三百四十万円余入っております。固定資産税が二百十万円余。それからたばこ消費税が三月分として百二十八万六千八百十円入っております。税外収入が一千三百万円余は、地方交付税の第一回分が入ったのでございまして、その額が八百九十三万七千円でございます。なお、千葉競輪が四月分として四十万円入っております。

その他、使用料、手数料が百万円、国庫支出金として二百六十万円等が受け入れられております。

歳出につきましては、とくに申し上げることもございません。

で、歳入歳出差し引きまゝで九百三十五万五千五百四十円、黒字でございます。一時借入金にはございません。

次に特別会計に移りまして、公益質屋の収入第一番右の一時借入金、三十万円、これは豊房農協から借り入れたものでございます。国民健康保険、豊房診療所につきまゝでは、この表によって御了承いただきました。と思います。以上で監査報告の説明を終わります。

二十八番（

）昭和三十年の五月十四日の例月検査

報告

——この税外歳入のうちですば、——

三千三百円ばかり予算として——

それから賦課徴収額が一億八百万円——なっております

すが、まだ賦課徴収すべき分があるといふにあります

か、それからこの賦課徴収できているものと、現在

賦課徴収されている額を予算額と比較してみると

相当な開きがありますが、これはなんによる未収入でありますか。

(約三百万円予算と——調定

が——
——であるわけでございますが、

なお、あと詳細に調べてまいって、つぎの議会にお答えいた
—たいと思います。よろしくお願いいたします。

議長(石井潔君)他に御質疑ございませんか。

(報告第七号)特別会計の国民健康

保険につきまゝ、私見を申し上げておきたいと存じます。

特別会計国民健康保険の三十年の欠損は七百二十万以

上となっておりますが、昨年私が議員に当選したとき

繰り越は三百十八万余円と記憶しておりますが、倍以

上になっておりますが、これは確か二月の市会るときに

私は 課長にお尋ね—たんですが、三百十四万
には合併するときに四十八万という、すでに時効になっている
のを気付かず、———という話でございまして、それ
につきま—て時効になっている四十八万は将来収入見
込めがあるのかということをお尋ねいたしま—たら、保
険課長は収入するという御答弁をされておったので
あります。

—からに四ヶ月経ちました今日、おそらく、この時効になつて
いる四十八万は一銭の収入がないと私はみております。
—こういう時効にたつて収入見込みがないというのは、できる
だけ、適当に———処分して———落すという

ことを私は、
なぜならば、昨年、三百十八万の
繰越滞納に対して、本年は七百万ということになりました
と、大分保険料が高い高いという、不平不満をもって

いる今日、去年の倍も繰越滞納があるということになります。と、納税者の方へえらい影響をおよぼしてくるんじゃないかろうかと、かように私は思うのであります。

かような関係から、時効になって将来収入見込みがないというものは、速やかに処分したいんじやないかろうかと私は思うのであります。なお、時効になつた四十万ということも、課長はおっしゃつたけれども、まだ相当に時効になつた個所があると思います。

繰越滞納は少なく、た方がいんじやないかと思つて私見を申し上げます。なお報告七号で現年度より三百九十三万でちつとみまゝのところは、納税成績が、パーセントにかろうじてなつてゐるようであります。が、このことにつきまゝでは感謝いたします。

なぜならば、納税成績が八五パーセント以上と以前では非常

な

違って参ります。ーかもー

八五パーセ

ントになりまして一点につきましては感謝いたします。

（ ）
前回の監査報告のときに

土木事業に対する受益者負担額。そういうものはその後
どのように処理されておりますか。完全に未納金にな
っておりましてたまたま仮に入りまして処理できており
ますかどうか。もしまだ未処理の額があったら、
どの程度でどういうものがあるかという点をお尋ねしたいと思
います。それからわけわけ官庁の仕事とか役所の仕事と
いうものはほぼ同一でありますか、いろいろ監査する上
において、それに関する

通常半年にいったんとか一年に一回細か

い監査をやる場合に

かならず相当大

きなエラーというものは出てくるんですが、監査しまして
 そういものが実際に^的館山市役所ではないものかどうか
 もしあったとしても

報告する段階

ではないのか、そういう点についてそういうものはありません
 かどうか、いう点を大尋ねたいと思います。最後にこれは

超勤問題であります。が現在市役所

超過勤務

そのものが支給方法がいまうまうまですと行っているのか

どうか。監査委員からみた立場として現在う支給方法を

改めなくてはならないというふうな考え方がありまうたら、

こういう監査報告の機会に適当にその実態を申し出て

いただいてこんご改正う方法にもって行ったらいいんじゃない

ないか、というふうに考えておりますが、その点について

監査委員の考え方というものを伺いたい。以上であります。

() だいたいもう負担金のことについてお答えいたします。主に大きな地えり寄付金といたしましては、船形港の修築工事と館山港の修築工事が主なるものでありまして、そのほか、道路維持修繕の地えり寄付金あるいは——の寄付金というものでございますが、とくに大口の方を申し上げますと、館山港負担金は本年度、過年度と比べまして八十万円のところ、現在まで四十万円入っております。四十万の未納になっております。船形港の方は百二十七万八千円寄付をいたしたところ、現在まで百万円入っております。二十七万八千円が現在未納になっております。以上でございますが、船形——納入していただくところ、あるいは館山港も

納入していただく。かように考えて徴収に努力いたしております。

なお、総計いたしますというと、地元寄付金が三百五万円程度見込んでおりますが、現在ところ、やや、その線に近づいております。現在入っておりますのは、三百九万円入っております。予定より余計入っております。以上でございます。

十一番 () 今うお答えにつきまゝて、館山港船形港の問題は、一応よくわかりましたんですが、それ以外に道路をつくったとか、あるいは下水を、そういう二万たり五万たり、あるいは七、八万というふうな。

未納金というものは、どうふうに考えておりますか。その点をお伺いしたいと思います。

() お答えいたします。これは工事施行

前に地えから三分の一寄付をいただきまして納入になってから仕事をはじめておりますんで、現在うところは未納はございません。以上でございます。

(第二点 第三点) につきまゝて、お答えいたします。土木契約等について御質問でございますが、私どもといたしましても、この点につきまゝては、注意するわけでございますが、何分にも率直に申し上げますと、工事そのもののう

ことはいたしておりませんので、

いたしまして、その点について、具体的に

ただ

館山高校の最近の校舎の補修費用問題

につきまゝて、問題はあったわけなんです。これは、

よくつくってもらう。その問題から、出資

したことでありますので、

第二点としましては、

第三点

現在の市営支給方法が決まるといふことは考えておりません。しかし、市営財政状態、また、予算、

膨張ということを考えますと、いろいろ感じさせられるのであります。けれども、監査委員としましては、この問題を採り上げて、市へこうしたらどうかという勧告をするというところまでは、まだ考えておりません。以上でございます。
十一番（ ） ただいま、監査委員さん

将来、前渡金というものについて、市長さん、考え方、この問題について、こんごどうようにして、—— をもってお

りますか。それを伺いたいのでございます。そういうも

うについては、一応労働基準法というけつきり、たも

が、—— そういうもの、適用を受けると、それが現在

市やっておりますことは正しくない。

いつまでもこういう状態ではつづけて行くということは中
央労働管理の面からみて法に定められたとおり。
やっていないというふうな点については一考を要しなければ
ならないんじゃないかと考えておるんであります。が、その
点について、こんご市長さんはどうふうにお考えをもつて
おりますか。

市長（田村利男君） ただいまのところ超過勤務は一時間
三十月で三時間、つづけてやった人に九十月、二時間か一時
間半やった人は言葉は悪いですが、まけてもらうという
方法をとっているわけでございしますが、決してその方法は
いいというわけではございません。ただいま先刻来の赤
字財政を解消するまでは、いかんともうがたいことであ
りますので、常に職組とも話し合いを——ま——て、一応

現在の方法でやっておりますが、いづれ一二年のうちには赤字解消のあかつきには労働基準法に示されまするような処置をとりたい。あるいはそれに近い処置をとりたいというわけでございますが、あくまで市民の税金によつて市吏員は働いておりますので、普通の一般公務員とちつと違つうなところもありますので、市吏員には申しわけないことでありますけれども、かまんでいただいている。誠に申しわけないことになっております。

十一番

（そうしますと現在のう

条

例というものは、そのままで行くということになるわけなんです。支給条例には超過勤務

はつきりなつてゐるわけなんです。それは、目をつぶつて現在、支給条例を改正しなくて、現在のままで、目をつぶつて、財政が困難だからそれで済むんだと、こつ

考えですか。その点はどうでしょうか。

市長（田村利男君）もってこの問題を推し進めるといふんな

決いてこれでもいいというふうには考えており

ません。またいろいろ

きておるわけでございしますが、もうしばらくこの状態を

やってもらいたいと希望

いた

ておるわけですから、給与条例もこのまま違法ではある

けれども

もうしばらくあと

年二年この線でやっていづれ赤字

（市長さんのお考えもまた

う

考え方についても超過勤務の点については納得すると

いうわけには参りませんが、一応将来どうしても支

給条例というものを市ではつくつてある。それに対して

この矛盾した考え方という
もうを是正するという考え方に市長さんも立って
一二年といわず、急速に考えるような方法を考えて
いただきたいと思います。 われわれは、一応労働者

の組織の中から選ばれてきておるんですが、君たちが
出ておってなぜ、労働基準法違反、支給条例違反の
ものを現行のまままで認めておるかといわれた場合に私たち
としましては一言半句もいえない立場にあるわけです。
そういう点からこの職組の人たちも、ただ市の財政が困
るからお前たちにこのシワ寄せを——
という——ばかりでは非常に可愛相だと思います。

仕事量の問題について現在各
吏員が超勤をやらなければいけないかどうか、そういうよ
うな仕事量の問題も——
というものをよく考え

ていただいてなるべく早い時期にこの問題をすつきりた
形に解決してもらいたいと強く要望——まして私の方問を
打ち切ります。

・二十番

（収入未済額について）ちつとお伺います。

が、館山市における税の滞納は、昭和二十五年の市民税
の——について——三十一年の一期分が一月
の九日、二期分が三月の十五日と記憶しておりますが、
この二期分の税というものは、もはや時効にかかっており、
これに対して、税務第二課長としては、どういう方法をとて
この始末をつけるか、何百万という数字にのぼっておるん
ですが、この点をちつとお伺いたいと思います。

・税務二課長（山口実君）お答え申し上げます。ただいま申
された鈴木議員さん、解釈は市税放っておいて五カ
年間の納めなかった場合、地方税法第十四条に規定に

なっている。十四条の解釈と申します。——か——い。わゆる
 時効問題は一方税法うみで処理されるものではありま
 せん。また税法う精神もまた民法と結び合うてござ
 いまして、民法においては、民法百四十七条にいわゆる
 一、二、三とございまして——時効と——わけてござい
 ます。館山市の現在う税務二課、私が——任——てからは、
 毎年本人う滞納については、あなたう滞納は、こゝだけあ
 る。いわゆる催告なり、通知なり、なんかかう形にお
 いて、本人に——さしてございまして、いわゆる現在
 の税務機構において、たゞ市当局が地方税法第十四
 条う五カ年間放つておいて時効に——た——とさういう原因
 は、——ないと思つておりますし、また私の方う排^付
 ておる民法第四十七條う——承認う件につきま

して、本人は滞納しておる経済力がなくて、延ばしておた

そういう経緯にある現状でございまして、こんごまたむずかしい問題が生じましたら、わかれ逐一審査いたしまして、万金う処置を講じたいと思います。

二十番

記憶しておるんですが、五カ年間

かかった場合は、時効になる。その場合に、地方事務所、あるいは、税務署におかまゝでは、要するに、滞納を呼ぶ。出をくう。その場合にきたものについて、支払いますという誓約書みたいなものを、入れてはじめて、それから、その期間、五カ年という。

館山市のやつて

おる。みると、令書を発行して二十日間後

に督促をする。督促というものは、一本ーかー

結局年数が五カ年と加わって行く。その間に、差押えをして、そういう手続きがほとんどないとい

たんですが、この場合は、いま

民法ということをおっしゃたけれども、そういうふうな契約
束とか、

・税務二課長（山口実君）ただいま申さまいた差し押えおよび
仮差押えの件でございますが、それは税法および民法に
あるものでございます。民法の

の件でございます。

——というのは、最後

はい、いわゆる税法の精神も民法の精神にも法律には
変りないものでございまして、一応本人が——延ばし

たと、現在館山市のように毎年催告書を出して本人
が経済力がないために延ばして、くわといわゆる本人が
滞納を承認している以上は時効発生する——

ならぬことに民法では規定されております。以上でござ
います。

二十番

(それに関連して伺いますが、この固定資産

税を

—— どうしても、その固定資産税は

現在のところ

—— は一年間

—— いうような現状になっておって、その場合に固定資産税、

—— そのものが大きな

—— それのために滞納

—— になっている。そういう場合に

—— その場合にどういうものに対しては、どういう方法をとって

・税務二課長(山口実君) だいたいその問題は非常にむずかし

い問題でございまして、我々日夜その点に苦勞してい

るわけでございます。ただいまの件は、鈴木議員の申さ小

まいたのは結果論でございまして、いわゆるその年に原

因は生じておると思ひまして、そういうこと、処分はわ

よわよ徴収される以前にーかるべき方法でもって処理
され、いわゆる法々示す通り、一年猶予とかなんか
そういう方法でもって我々の方へ送っていただければ
こんご固定資産税の整備には税務二課とーては
誠に好都合のことと思います。

二十番

私はその問題ですが、そういう方法
は困る困ると泣いてくる人に対して

あんた、いうとね。

そういうものが

あるということになれば当然、これは市民

議長（石井潔君）ほかに御質疑ございませんか。

（税務課長さんにお尋ねいたします。）

合併以来 今日まで市税の滞納に対しましては

一括郵送一たいて一括出張所に 出張所

は事務をとる。なお おるわけなんですが、

非常に出張所は にも苦勞しておるんですが、私

考えますのに、一件について十期の手数料をとって

おりますことであるし、なお、これは

強制執行の手続上に支障をきたす場合があると思う

ので、なお、そればかりでなしに、この手数料と延滞料

入っておると思ひます。そう、いうことから

考えますというところは郵送一た方が大変有利であつて

出張所の苦勞がないじゃなからうか。かように考へるう

であります。なお、三十一年度にもこの郵送すると

いうことになれば、これは総務課長さんの方にお伺い

ますが、こゝに必要な自転車を——
いただく
きたいであります。

—— 自転車を配達していただきま——人
ですが、その自転車たるや、——
ボロボロ

問題にならぬ自転車でありま——て

自転車屋（持っていていても修理が利かぬと——

自転車を持っていない出張所がありますと、——

。二十二番（

）滞納の金額ですが、四月末で四

千七百四十円となっております。こゝは、

一月末の滞納額五千百何円ばかりま——て、それに対

いて

一体どうくらしい滞納

お伺いしたいと思つて、こゝは

予算市会うときに市長う方から四千万円は

（お答え申し上げます）

額が約七百万円でございまして

は一応

四月一日から

いっぺんに二百万円徴収計

画を樹てましてすでに二月中に五百万とりまして現在五月に入りまして七百万円目標を樹てて徴収しているわけでございまして五月に入りましてから

徴収に努めております。まだ

将来う見通しとては確約ができませんですが、私の希望といつたまゝでは七百万円線はえ達できるところという

自信もそろそろ出てきました。ーかしこは

確約はできませんですが、市長

さん、いわゆる

。十八番（議事進行上申し上げます。監査報告

事項は一応皆さん御質問が終ったように考えますので
ここで
をいたします。

議長（石井潔君）お諮りいたします。ただいま十八番議員

より一応
休憩一時間どうかと

御意見が出ておりますが、打ち切つてよろしゅうござい
ますか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。日程第五

の報告案件につきまして、こゝをもって終りとします。
午前中の会議は以上で休憩といたします。午後は一
時三十分再開といたします。

議長(石井潔君) 午後の出席議員数三十三名。午前に引続き
会議を開きます。

議長(石井潔君) 日程第二議案第三十三号上程いたします。

(書記朗読)

(議案第三十三号について御説明申し上げ
ます。こゝマスコット二台のうち一台は神余分団
に派遣するものであります。あとう一台は畑々自警団に
配布いたすものであります。神余分団は現在手押ボ
ンプがございますが、こゝはきわめて旧式なものでご

ごいまして現在故障を生じております。ーかし

この故障を修理いたしましても、応急修理という

程度でございましてただちにまた事故を起すんでは

ないかとそういうふうな縣心念もございますので、この際

マスコットを購入してきわめて水利が不便な同地区の

火災予防にーたい、こういうふうにかえるので

ございます。畑の場合は、市街におけるところへき

すう地として、きわめて不便なところでございすが、一昨

年ー田の統合改善に際しまして自警団に

なり、その条件としてマスコット一台買う。こういうことに

なっておりますので、この地区へ一台配布して火災上の

万全を期したい。こういうふうにかえておるのでござい

ます。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本案は
原案どおり決定さしました。

議長（石井潔君）先いて日程第三議案第三十四号上程いた
します。

（書記朗読）

建設課長（新井重助君）議案第三十四号について御説明
申し上げます。ただいま使用されております貨物自動車
は一台でございます。補修用材料、その他運搬に
従来せしめておりますが、拡大に伴いまして、市民

皆さんに非常に御迷惑をかけております。ありまして
今回貨物自動車を一台購入することにいたしましたと思
います。ただいま使っておりますトヨタ自動車は非常
に具合が悪くて能率もよろしくないでございまして、同じ

トヨタ型を求めたい。それから中古車を買う関係上、
適当なる業者を教えていただきまうところ、ともかく
も販売会社よりトヨタ自動車を選びまして五十三年型
のトヨタ四ト二積の五十四万円です。

これを購入いたしまして
資材の運搬を完全にいたしまして、皆さん、御要望に
添いたいと思っております。

議長（石井潔君）本案に対して御質問ありますか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

ニナ番（鈴木市蔵君）土木課長に伺いますが、自動車購
入について、トヨタトヨタと館山市がトヨタばかり、変に
考えるけれども、購入予算の見積りをどことどことを
とってその場合にいくらであったかというふうに御説明
して下さい。

・建設課長（新井重助君）　ただいま申し上げましたとおり、現在使っておりますトヨタが非常に具合がいいということとは、砂利の運搬でございますが、現在川の中へ入って採取運搬しております。　曰産その他自動車は砂利を積みまゝで始動時間、いわゆる登はんが鈍いというものが、運転手一般の語でございます。そういう意味合いからトヨタを選定いたしました。その他自動車会社から、見積りはとっております。

・二十番（鈴木市蔵君）　その他会社から見積りをとっておられるというのに対しては、ただトヨタ会社から購入したということとは、よくわかります。

この点は、どういふものですか。

・建設課長（新井重助君）　その意味でございますが、ともかくも中古車を求めるのでございまして、値段の安いものが、

いいというばかりには参りませんで、会社や信用をいたしまして今まで使っておりましてトヨタが非常に能率がよい、こういう意味合いでトヨタを選定した次第でございます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）日程第四議案第三十五号を上程いたします。

（書記朗読）

（本案は富崎分遣所開設に伴いまして消防手六名を新採用いたしまして、消防署吏員の定数を従来三十一名でありましたを三十七名に変更するため改正条件でございます。）

議長（石井潔君）本案に対して御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本案は
原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）つづいて日程第五、議案第三十六号を上
程いたします。

（書記朗読）

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）説明省略。本案を決定することに御異議
ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって決定いた
します。

議長（石井潔君）つづいて日程第六、議案第三十七号を上程

いたします。

(書記朗読)

。税務三課長(山口実君) 議案第三十七号について御説明申し上げます。

本文の地方税法第三百二十一条は市市税条例四十二
条でございまして市民税の納期前の報償金の規定
でございします。

三百六十五条は市条例の第七十条の固定資産税の納期
前の納付う人に対する報償の規定でございします。

従来市といたしましては納期のこない前に税金を納付
した方について納付金額の百分の一(かける奇数でもって
計算したその金額を後日報償金として納付者に支給
しておったでございします。これを前途払いう方法に
変えるためには地方自治法の第百五十三条の規定に

において議決を経なければいけないとそういうことになってお
るんでございます。地方自治法第百五十三条というの
は、市で特別に必要な場合はそういう前途払いでする
とき、議会が承認を経なければいけないとそういうこと
になっておるんでございます。

こんど市税を前納した場合に報償金をただちにそこで
支給するためと、後日いわゆる今までいう通信費、そういう
ものを節約するために地方自治法第百五十三条が規
定によりまして、議会が承認を経る次でございませう。
二十八番（私は地方税法うなにと持っておりますが、
三百二十一条および三百六十五条、それから市条例、そう
いうものを参考までに原文をそろそろ読み上げていただ
きたい。）

（書記朗読）

二十八番

（今読み上げた中に条例で決めてある額ということがあつたんですが、

税務二課長（山口実君）納付税額が百分の一に奇数をかけた額で、地方税法と同じに決めています。）

八番

（第二課長に御説明願います。）納税組合で表彰された問題について、ちっと私は質問したいと思いますが、この間、表彰された問題において、はじめて納税組合というものが表彰された組合が多々あると思いますが、それについて――

税務二課長（山口実君）お答え申し上げます。確かに富崎では二組合表彰ありました。

八番

・税務二課長（山口実君）もう一回質問の内容がわかりませんが、
八番（ ）

・税務二課長（山口実君）ただいまちょっとわかりませんから、後日
調べておきます。

・八番（ ）

・税務二課長（山口実君）後日よく調査してお答え申し上げます。
二十五番（ ）

・議長（石井潔君）御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は
原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）つづいて日程第七議案第三十八号を上程
いたします。

（書記朗読）

保険課長（唐沢貞太郎君）議案第三十八号につきまいて御
説明申し上げます。お手許に差し上げてございます。
大きいプリントにつきまいて御説明申し上げます。
これはいずれも前年の実績に応じて算定されたも
うでございます。一番最初よりA療養給付費算定
説明一件当り単価十一月五十銭。これは全国甲と
乙に別れておりまして、当市は乙地区に該当します。
で、十一月五十銭、かけることより一件当りの点数、これ

は前年の実績の総点数を総件数で除したものでござい
ます。これは六十三点でございます。それから利用率は
月の利用率平均一三・八パーセントに十二カ月をかけまして
一六六パーセントでございます。この利用率は件数を人
員で割ったものでございます。すなわち一人平均一年に
一・六六回というわけでございます。これを　　します
と一人当りの費用額が一千二百三円というふうになる
でございます。この一千二百三円に四月一日現在で被保
険者数三万八千五百二十人をかけたものを

〇・五〇半分にいたしましたものが給付所要見込額二千三百
十六万九千七百八十円になるわけでございます。つぎが横
に行きましてこの二千三百十六万九千七百八十円に助
産費所要見込額前年の実績は四百七十二人でござ
います。これを五百円を剩したものですが、二十三万六

千円、葬祭費所要見込額、こかも前年の実績で三百十五人、こかに五百円かけまゝで十五万七千五百円、こかを合計いたしまゝの結果が二千三百五十六万三千二百八十円、こかから一般会計繰入金と百万円、控除しまゝで、その残りの二千二百五十六万三千二百八十円、こかが基本保険料の假想額になるゝてございます。世帯平均にしますと二千七百三十円、被保険者平均にしまゝで五百八十六円になるゝてございます。なおBの説明につきまゝでは条例改正がどうあつてございますゝで、その結果の割り振りの料率の見込額等が出てゐるゝてございます。以上で説明を終ります。

二番

（保険料の賦課総額が当初予算より）

二百五十万ばかり減つておりますが、従いまゝで、昨年も、百分の四十五が百分の九十五になつて四十減つて

おります。なお、資産割が昨年は百分々七・五が百分々十二
ですが、これは百分々四・五ふえておりますが、均等割平均
三十五月、平等割七十月と減っておりますが、しかし料率
は減っても、市より入金は当初予算で百万であります
が、その後ふえておりますが、減っておりますが、ひとつ、そ
の点。

・保険課長（唐沢貞太郎君）現在、は当初予算で百万で、こ
算式を立つたのでございます。

・二番（ ）これは市長さんにお尋ねいたしますが、先
般私申し上げましたとおり、合併後、本当に税金が高
いということには不平不満^をいっておりますが、館山市民が
特別に郡内、他、町村より、病気にかかると思われませ
んので、保険料はまったく、館山市は高いんであります。
余り市民が高い、高いといつて、ことに九重う、市民が高

い高いといっておるが、どうか高いかと思つて私は調査してみたわけなんです。そう税金が高い高い原因は要するに市より繰入金の本当に少ない。当初予算では被保険者数が三万九千五百人に対して百万でございまして一人当り二十五円。干倉町を調査いたしましたところ、干倉町の被保険者数が一万七千三百人でありまして三十年度は二百万計上、三十一年度は百万ふやして三百万でありまして被保険者一人に対して百七十四円であります。館山市から思いますという繰入金が百四十九円多いわけでございます。さらに丸山町を調査いたしましたところ丸山町は被保険者数が八千二百人でありまして三十年、三十一年とも百万繰り入れております。被保険者一人について百三円でございましてさらに郡内で一番小さい南三原を調べましたところ南三

原は人口が二千五百三十六人ございまして、これに對して十石繰り入れております。これは近く合併という事で、ことしはとくに少ないそうでございしますが、それにいたしましても一人當りが三十九月、館山市より十月高い、これは合併する當時、二十九年度は館山市は、三百万石繰り入れがあつて、昨年は当初予算で五十万でさらに百五十万繰り入れて、二百万であります。が、ことしはさらに百万減らして百万ですが、こゝ繰入金が少ないので、当然保険料が上がるんであります。が、これはいかに館山市が財政が困難であるという事はわかれ、承知しておりますが、せめても二十九年程度に三百万繰り入れても、まだ他の町村と比較すると、一人當り少ないわけで三百万繰り入れても一人當りが七十五月、丸山町や千倉町に比べてまだまだ少ない。二十九年程度くらい三百万くらい繰り入れではどうかと

私は思ふであります。　　そーりますよば、

さうに考えるてあります。

御参考までに申し上げておきます。

市長（田村利男君）結論から申し上げます。　去年も確かは

じめから多額う繰入金ではないと存じまして、最初は
五十万あと追加予算でふえたと記憶しておりますが、
本市におきましても今年保険課長といろろ相談の結果、
まず百万でやる見込みがあるというわけで、このように
に算定したわけでございますが、あくまで、どうでもよろ
やらない、というような場合は考慮したいと思う次第で
ございます。

次に二番議員が、館山市が一番高いと申さるたが、
私は、ちっと見解を異にしているものでございまして、
今十七市うちで健康保険を完全実施している

木更津と館山市だけでございます。従いまして千葉、
市川、船橋、銚子という地区をみましても国民保険と
いうものは完全^実施しておりません。そういうわけでありま
す。そう各市と比べればちつとできません。それともうひとつ
各郡内の町村と比べればございますが、確かに館山市
は高いわけでござりますが、私が見解でござりますが、
館山市のように本當り健康保険、社会保険に入っている
会社、池貝とか、電気工場とかあるいは鉄道とか、各種
種々健康保険の加入者が大体数字はちつとわかり
ませんが、三、四十パーセントいるんじゃないかと思
うんですが、そういう人たちはこの国民健康保険へほと
んど加入してない。結局館山市が五、六十パーセント
の人だけが市の繰入金によって利益を受ける。四十パー
セントの勤労者は百万繰り出すことの負担を極端に
いへば受けない。

ーかながら、村落、村におきましては、

あるいは小学校の先生と敬言寮のおまわりさんだけ、
極端に言えば、そういうふうな。あるいは、廻り工場に
通勤している人も中にはあります。うけれども、市民、村民
町民の大部分が国民保険に加入してある。だから町村の
全体で税金を国民保険で導入しても、私は一向に差し
支えない。館山市のように半分以上勤労所得者が国民保
険の恩恵を受けない。ならびに家族が恩恵を受けないと
いうところへ、ふんだんに繰り入れ金を出すことは、ちつとちゅう
なされます。今やところ、百万円計上してあるわけでご
います。が、あくまで健康保険が軽くなるようなことがあ
つたら、また御相談申し上げて健全な

こういうふうなわけでごいまして、右十七市のうち十五
市はこの運営がいくら相談してもできないというものは、

けり。そういうような大きな都市では困難性がいろいろ複雑なものがあるかと思ひます。私見から、ちよつと申し上げておきます。

二十二番

・保険課長（唐沢貞太郎君）ただいま御質問に對してお答え申し上げます。まず最初御質問なんでございしますが、前年調べた結果をみますと、その後社保ですが重複して入つておつたものもあるし、転居するものもあるし、実ははっきり申しますと、転入したものがつかめないで私の方困っておりますんで、こんど市長さんにお願ひをしまして、商工課の窓口とすぐ隣り合せてなるべく転入をつかまえるというような手段にやつたうてございます。

いわゆる転入の調査と非常に重複しておった場合が確かにあると思われまして、そういうものは調査の結果どんどん落してまいります。それから滞納整理でございますが、これは単に保険料のよを集金するというふうにかをやらねいと考えております。組合結成もそうだし、保険の自覚ということも皆さんに促すこともそうだし、健康保険の仕事をもっとやり抜くこともそうであるといろいろ総合計画のもとにやらなければ、この保険事業というものは達成できないと考えておりますので、着々そう下準備は進めておりますので、もう少しの間、ひとつ御手捧のほどをお願い申し上げます。

○十一番（ ）市長さんになつとお尋ねしますが、これを

完全に実施してゐるが、県下で二市しかない。あと十五市というものは、不完全実施か、それとも全然あつて

おりませんが、一応健康保険というものは法律によってやってお
るものでありますが、そういうものを無視してやらないと
いう。

特別の根拠があると思ふんですが、不完
全実施というものはどうような形になっておりますか。
その点について。

市長（田村利男君）以前千葉市におきましては、議会々相談
を受けてつくるということを決議したようになってございますが、
その後実施しておりません。市川市におきましては、一時
市でなく組合り形で実施しました。が、それもほとんど灯
が消えていき、市川駅と江戸川橋の中間くらいに

診療所という名のもとに、わずかに診療所
だけが組合長個人経営り形で国民保険という形はつづ
いてまわっておりますが、そのほか銚子で
も計画しているようですが、なかなかうまく行かないよう

でございます。ーかしながら、館山市近隣ほど国民保険
が各町村完全実施している模範地区はないのでございま
ーて、東金地区村あたりは全部あていていいわけなん
ですが、あの辺はもっとも成績が悪くて、町村自体でさ
えあていなかったというところがあるわけでありまして、
そので
きなかった理由は、医者への不協力というところという人
もあり
まして、うし、町村当局者への不熱心ということもあると思
います。私個人的に現段階におきまして、私個人が意見で
ございますが、医者そのものはこの組合がなくてはむし
ろ生
活して行けないという現状で、医者そのものは全面的に
なくとも、館山市としては協力する体制をとっております
が、
まだ、その地区ではそういうような気分になっていない地
区があるようでございます。なぜできないかというの
は、
やはり大きないろいろなコンプレメントが総合した結果

いやないかと一概にはお答えできません。

・十一番

（なぜできないかという点についてはつきりには統計が出ないんですが、こゝは保険課長にお尋ねするんですが、よその十五市でもって完全に実施していないとこういうことがたまに市民に知れまゝて、よその市でもかまうなことをしておるんじゃないかとこういうふうな立場から高い保険料を賦課されてゐる所得税が多い人たちが、こんごそういう態度でもって出てきた場合に市としてどうようにして、この人たちを説得するかという点に相当困難性があると思いますが、そういう場合において、どういうふうな態度をとって、そういうふうな人たちを納得させるかという点について、保険課の意見を聞きたいと思ひます。

・保険課長（唐沢貞太郎君）現在まず啓蒙宣伝を起すことと、それから各自が被保険者であるということと

自覚を起こさせる方法と、少なくとも保険料をただとら
 せんだということじゃなくて、報配といいますが、見直
 り、物資といいますが、そういうものをせひやらなければい
 けないと思つて、現在少しずつですが、計画をしております
 なお、一、二、そういう方がみえておりますんですが、係員を
 して、説得させ、そして保険料を納付させておるような
 次第でございます。

十一番（ ） 保険料の滞納者が多いということとは、

そういうふうなものが根本的な原因となつておるんじゃない
 かと思つてますが、こんごにおいても、いわゆる市がそう
 いう形を打ち出している場合、非常に困難があると思いま
 すが、たまたま私たちに対して、こんご問題をいろいろ
 聞いてくるんです。市民は絶対にこれをやらなければ法
 律に触れるのか、よその市は、どうやってるんだ。これは、

法律だから、義務的にやらなくちゃいけないんだ。入らないわけには行かないんだというふうに一応説明しておるんですが、納得いかないような顔をしてゐるわけですよ。例えば市長さんから果下り實際を聞いてみますと、完全実施は二市一かない。こういうような現状でこんごう保険料の徴収問題においては、非常に困難な見通しがあるんじゃないかと私は心配するであります。見返り物資といわれますが、どのような形でそういうものがたかまますかわかりません。ですが、わいわいと一ましても、市民を納得させて法に従えというふうに實際のところは、

その一点だけではなかなか納得してくれないであります。

そういう点から十五市が金がないというところに大きな問題点があるうかと思うんですが、こういう問題をこんご解決してとにかく国の法律によって

たけなけ

ればならないんだと、こういう立場に各市ともそろって健康保険に入らなくちゃならないんだという線を出してもうわなけなけは先へ行ったら館山市の保険組合というものは崩れてしまうんじゃないかと私たちは考えておるんであります。そういう点について十分保険課長として考慮していただいて

一なければならぬというような

市民を納得させるだけの十分な資料を校正して当たってもらうわけなけなけは私は困ると思ひまゝ、一応御注意申し

上げるのであります。

二十八番(鳴貫杜作君)お伺います。去年の一例をとって料金とことし料金とどういふ比較になるかということと、それからここに
あります一件、総点数利用率
というものの基礎をどこに求めたか、それを数字的に去年の統計でやりになったというが、黒板へ書いて説明して
もういいと思います。

保険課長(唐沢貞太郎君)これは比率でございましょうか。

二十八番(鳴貫杜作君)こゝ一人当り需用額一千二百三月という
を出すまで、過程を説明してほしんですが、それから
ひとつ過程に例をとって去年とことしと
比較をさしていただきたいと思います。

議長(石井潔君)議案第三十九号は議案
のためこちら

整理をいたします。関係上、これを保留いたしまして、後日
回わしにいたしまして、日程を変えて、日程第十おまじオナ
と進みたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 同様に日程を変更いたします。

議長(石井潔君) 日程第十議案第四十号を上程いたします。

(書記朗読)

() 議案第四十号について御説明申し上げ
ます。昭和三十九年度におきます、実質赤字額三千

百十萬ございまして、この三十九年度でできる限り、解消
したいと考えまして、議会ならびに市民の各位の協力と
それから、各関係の分野におきまして、五十萬の税収入
がもし、七百萬確保できるならば、大体館山市の赤字
として残りますものは一千六百四十萬月に縮小する見

込みが立つたのでございます。

歳入は五月三日現在で二億二千二百八十二万九千八百七十六円ございまして、歳出におきましては二億三千七百八十一万八千八百八十九円、こういう結果になりまして、差引きいたしますと一千四百九十八万一千十三円、結局不足になるわけでございます。しかし、なお、そうほかには支払未済額として予定されております。もうが五百三十三万四千八百六十九円ございます。

なお、五月三十一日までには収入見込みものが三百八十三万六千六円ございますので、差引き最終的、赤字といたしましては、もし、税金がこうとおりに行くなれば、一千六百四十七万九千八百七十六円となる予定を立てておるわけでございます。

しかしながら、歳入は歳出と異なりまして、往々にして予定より、収入が小さい場合がございますので、当市におきましては、最善の方法として、歳入が最悪の場合を考えま

一、三十一年度より歳入歳上流用額を一千八百五十万円以内で御決議を願いたいと考えるのでございます。

そして、この間に歳入の確保にできる限り努めまして予定以上実績をあげたいと考えておるわけでございます。よろしく御承認のほどをお願い申し上げる次第でございます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）本件に関して御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって原案通り承認と決定いたしました。

議長（石井潔君）つづいて日程第十議案第四十一号を上程いたします。

（書記朗読）

（順序といたしまして歳出から御説明を）

申し上げます。

更正によりまして、賦

源を求めましたので

つぎは歳入について概略申し上げます。市税が今回、市
加賦税といたしまして一千六百七十九万二千八百円を計上して
ございます。これは市民税の滞納繰越分と固定資産
税の前年の分と滞納繰越分をそれぞれ充てるものでござ
います。五款の国庫支出金は先ほど歳出で御説明
を申し上げます。館山さん橋の三十年度の災害復旧費、
六十万五千八百円に対する工事費と事務費に対する三分
の二の補助金として計上いたしましたのでございます。
以上でございます。

議長（石井潔君）「はい。」

議員より質疑打切り、動議

が出まゝたんですが、一応、こゝで打切ること、御異議ござ
いせんか。

三十一番

（この問題は非常に

この算定基準

市税に対しては計算の方法について、まだ疑義があると思
います。なお、現在健康保険料が非常に高いだんだん減
つてゐるような状態にある現在、少しでも保険料を下げる
ことによつて

をしておるんだということを示して行かなければならぬんじや
ないかと。——必要な段階にあります。

従つて私はこの問題についてはもう少し誰でも納得が
行くような算定基準のもとに——市民
一人一人にすぐ訴えてわかるような方法で——

従つて保留に――いたゞいて将来再検討の上改めて出
していただきたいと思います。

() いたゞいま議案保留の御意見がござい
ま――たが、実は早速賦課をしなけねばならぬ段階にな
つておりますので、できるだけ本会議において成立してい
ただきますようお願いいたします。

・二十八番(鳩貫社作君) 早速賦課をしなけねばならないと
いうことは事実かも知れませんが、――

・二十一番()

相当質疑が行われましてなんですが、納得できません。

なお、助役より早速賦課――しなけねばならないということでは
ありますが、それは賦課――しなけねばならないことも

わかっています。ただいま二十八番議員の発言がありました。

たとおし。

つぎにこゝをよく慎重に検討して

それから

こゝ新しい方法でもって賦課すると

こういう行き方が私は正しいんじゃないかとかように考えております。

三十一番

（先ほど申し上げましたのは結局私は

三十一年度の館山市の特別会計国民健康保険の予算とにらめ合わせまして非常にこゝあたりの一般経費と同じような移転的経費が含まれておるんじゃないか。従ってこゝ予算はある程度減額をして追加更正をして十分こちらへ貸すだけの余裕がある予算である。

こゝように考えます。

まだ決定

しておらない現在、こゝをはっきりとこうだと決めてしまふ

ことに疑義を持つものであります。従つてこゝを
にらみ合せて研究をしていただきたい。こゝう申し上げる
んであります。こゝ予算の中に非常にこゝは、がまんて
きる経費じゃないかというゝが相当あるわけです。そゝうい
つたものは削減して行けば

議長（石井潔君）日程第ハリ三十八号議案に対して質疑を続
行いたします。

三十一番（ ）昨年度の一戸世帯に対する――
本年度の――
割合はどの程度になつて
おりますか。

保険課長（唐沢貞太郎君）お答え申し上げます。こゝ大きいプリ

ントのBの料率見込みの説明額の中より所得割三十
資産割三十というのはこれは条例改正するとき変更する予
定でございますが、それが議決になったものとして一応計算
してございますんですが、その場合の計算は均等割を納
める方であつて、固定資産を千円納める方であつて五人家
族の計算をしますと、千円の料率は合計二千三百四円にな
ります。それから本年よりそれによって割出したものの料
率は一千九百四十三円になります。以上でございます。

三十一番

・市長（田村利男君）先ほどあるは申しましたが、その前々言葉としてしまして、あくまで、この百万円程度の支出でやっていただくたいというが、私の方、主義でございまして、いかもこの二千二百万の予算が大体予算内で繰り出しもそう大いに出さなくとも済むと見込みをつけらるわけ、でございまして、どうしても最悪の場合、運営不可能というような場合には、また考えるときもないわけではありませんけれども、ただいまうところ新しい財源というものが、非常に切詰めてないわけでありまして、いくらいくら出せるということでは、ここで積極的に申し上げることはできませんが、健康保険をスナースに運営することに努めたいと思います。

・三十一番（

）もうひとつ三十一年度、健康保険の当

初予算について、ございしますが、これには相当移転的経

費と称すべき経費が相当あるように私思いますが、

問題とからみ合せてこの健康保険の予

算についても将来積極的に消費的な経費を

避けるという方向に

意思があるをなし

市長（田村利男君）この問題もかなり

非常に健康保険 国民保険組合というものは昔から強固

な組織 郡協同連合会とか 果協同連合会とか

いう形でかなり強制的に割振した負担金 支出金という

ものが何十万円とあるようなわけで、いずれ果金体の会議

でも持ち込んで冗費を省くというような線にこんご努力

して行きたいと思う次第でございます。その他、保

険課内におきまする移転的費等につきまゝでは、

課長をして十分注意させるつもりでございます。

十八番

（本案に對しまして、ただいま、運営委員会を開きまして協議いたしまして、大体、この予算につきましては、当初予算におきまして、本議会が承認をしておるものでありまして、原案を承認いたします。ただし、鳴貫議員さん、御意見に對しまして、健康保険課の運営の件につきましては、内部調査のために、議会から特別監査を次、議事に報告していただきたい。）

十九番

（ただいま、運営委員長からの発言があり、まーたんですが、私はこの議案を承認するかどうかという点について、果たして、運営委員会にそのような権限があるかどうかと、この点について、ちつと、運営委員会の行過ぎではないかと、このように考えております。で、議事の進行、運営についての、みり、御審議なら結構だと思ひますが、議案の賛成とか、不賛成とかは、運営委員会です。）

やるのは少し越権ではないかと考えるんですが、この点について運営委員長さんに改めて伺いたいと思います。

十八番

（ただいま私が申し上げましたことはもち

ろん伊勢議員が考えておられることと御意見は同じであります。私が申し上げたことがそういうふうにお聞きとり願えなかったところは私が不徳をいたすところであります。ただ議事進行上運営委員会として、そういうふうになりたいという希望をいつたうであります。

二十二番

（今、問題に関連しておるんで私もちつと

御意見を申し上げたいと思います。先ほど今問題がいろいろと

最後には、これを保留と

いうようなところまで行くと議長はそれに対して休憩を宣して、そうして運営委員会に――

――なんらか一つくりと行かないものがあつた。事実ある

ったんです。そのときに保留という意見が出たときには保留でなくしてこいをそりまゝ認めようという意見がどつちが出るわけなんです。出てはじめて最後には表決をやつても出てくるわけなんです。それでなくしてどこまでも原案をそりまゝ通そうということが、なんかなさねているように思えるんです。そういうことから、今、運営委員長が発表されたことに、私にはそういうふうにとれた。伊勢議員のいうのは、当然だと思ふ。先ほどもこいには昼食前ですが、やはり、そういうのがあつた。議長さんも運営委員会が動きというものに対して、われわれが納得が行くような方法へ持っていくのもういたい。今までですっきりといていない点が多々ありますので、とくに要望いたします。

○二番（ ）本問題につきまゝて、相当に質疑があり
まゝなんですが、私はこゝに保険賦課総額が当初予算

で二千五百万円——ございます。本日提案されましたと
比較いたしますと、二百五十万——なお先ほど

申し上げましたとおり、料率におきましても、所得割が
昨年は百分り四十五であつたが、本年は百分り九十七、資
産割におきま——ては、昨年は百分り七・五であつた。つが
ことは、百分

五番(萩生田七郎君)ただいまより十八番議員の動議に対して賛成いたします。

すなわち、保険料の料率算定、基本的な賦課——
 についてはすでに過般の当初予算において指摘された範
 囲内においてむしろ、そう下回る——なっております。

要するに、こうした基準内容によって賦課したという当局
 の親切心によって、私は——さしたとかように解釈するの
 であります。よって私は、原案に賛成するとともに、十八番
 議員さんの討論打ち切りの動議に賛成するものであり
 ます。

二十二番()ただいま、萩生田議員から、十八番議
 員に対して、先ほどの発言は動議かどうか、言葉の
 いい間違ひ——あはれは動議であつた。こういう発

言があつたようです。あゆをそのまま動議という。わゆるはなぜならは休憩中に運営委員会を開いて

それは動議というこ

とにはならない。萩生田議員がいま申し上げた動議に賛成といひます。その点はちつと誤りじゃないかと思へう。

十一番（ ） だいま十八番議員の発言が動議であ

りまするならば、その動議がどううな動議でありますかはつきりません。もういっぺん動議がこすうな動議であるといふことをはつきり前提として、動議をもういっぺん提出していただきたいと思ひます。

十八番（ ） 動議として。―― 本案に對しま

しては、予算面、問題、私、申し上げることは、当初予算で本会議によつて承認をしておることだから、これを認めないといふことと、それから、嶋貫議員と飯田議員の御要

望も勸案いたしまして、保険課の運営の件につきましては、本議会において特別監査を要求いたしまして、特別監査をしてもうらうというところ、二点を動議として申し上げました。

。三十一番（ ） ただいまの動議の修正でございしますが、もし、この動議があったとすれば、望月議員の動議はなかったと思いますが、どちらが優先してよろしうございますか。

。二十五番（ ）

。議長（石井潔君） ただいま、二十五番議員から休憩の要求がありましたが、休憩することには御異議ございませんか。

（「異議なし」「続行続行」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）続行という御意見が多いようですから
続行いたします。

議長（石井潔君）それでは先ほど三十一番議員望月議員から
本案保留の動議が出ています。さうに議長解釈いた
します。それに御賛成の方は……

三十一番

（結局望月議員の動議を採択する

わけですね。動議に対する私の意見です。本問題につい
てはただいま望月議員のいわれたとおり、過去の保険課
においていろいろな問題があったというのも相当ふんだん
な予算をとって、これら執行に當っておったが、ひとつの
原因ではなからうかと思ひます。将来こういった禍根を
絶つために新しく保険課が又省してそれで相当大英断
が

なるほど当初予算に二百五十万と

いう数字が承認されておるけれども本問題は別問題

であります。それと一緒によちや私はちっと問題があると思ひますが、ただ計数的な削減をまだはつきりと納得いたしませんし、望月議員の動議に私は賛成いたします。

決いてこゝ問題を一切葬ろうというんじやなくて、もう少し研究の手段を必要とします。こういう意味で動議に賛成いたします。

議長（石井潔君）原案賛成の動議が出ておりますが、原案保留の動議の方を先に採決いたします。原案保留の動議に御賛成の方は御起立をお願いします。

（起立少数）

議長（石井潔君）少数でございますので、保留の動議は否決さ
しませんでした。

議長（石井潔君）改めて原案賛成の動議に対して起立採
決をお願いいたします。賛成の方御起立をお願いします。

(起立多数)

議長(石井潔君) 起立多数、原案通り決定いたしました。
議長(石井潔君) なお、保険課の事務監査につきまいて、
動議が出ておりますんですが、特別監査請求の動議
に御賛成の方は御起立を願います。

(起立多数)

議長(石井潔君) 起立多数により特別監査請求することに
決定いたしました。

議長(石井潔君) 日程第八を上程いたします。前に先ほど御
請求の監査報告のうち、嶋貴議員から質問が出てお
りますので、関監査委員から御報告願います。

監査委員(関武夫君) 御報告いたします。前にひと言、申し
上げておきます。ただいま、保険課の監査につきまいて、議
会の御請求がございました。私ども――できるだけ

誠意と熱意をもってわかれわかれ能力をおよぶ限りの最善を
尽くして監査に当りたいと思います。どうか議会や皆さんに
おかれましても、お気づきの点等よろしく御指導、御べん達
をたまわりたいと思います。午前中、御質問に対する
お答えを申し上げます。四月末におきます、税外歳入予
算と調定、差額の内容はどうかという点でございます。
予算は一億三千三百万円、調定が一億一千万円、その差が
約二千五百万円でございます。その内訳は、市債がもつとも
多うございまして一千十万円、国庫支出金が七百四十三万
円、果支出金が百九十二万円、寄付金が百五十万円、繰越
金が三百十二万円、こゝらが主な数字でございます。こゝ
合計が二千三百六十二万円であります。その他が少額な
ものの累計したものでございますが、なおこの内訳の主
なものでございますが、市債が一千万円は教育債が

一番多うございまして、六百五十万円、これは館山小学校
が分が百五十万円、第二中学が分が四百五十万円、第三中
学が分が百五十万円、それから土木債におきまして、百五十
万円、これは都市計画事業債がこれでございます。
つぎに消防債が五十万円、これは防火水槽に
に対するものでございします。

社会および労働施設債において五十万円、これは失業
対策事業債でございます。産業経済債が百十
万円、これは船形漁港修築負担金に對してございま
す。以上、市債の合計が一千十万円でございます。

国庫支出金につきましては、生活保護費の負担金が
百六十四万円、災害土木費の補助金、負担金が七十三万
円、消防施設

の負担金が五十万円、都市計
画補助金が三十四万円、産業経済費の補助金が八十六万円

文教施設費、補助金が二百七十九万円、（き）地学校の補助金が三十万円等でございます。 果夫虫金、百九十二万円

の内訳は、医療保護費、負担金が二十六万円、伝染病予防補助金が三十二万円、結核予防費補助金が三十六万円、農林費、補助金が三十九万円、道路橋梁費補助金が四十万円、統計調査職員が十五万円等でございます。 寄付金の百五十万円は、土木費、寄付金が四十一万円、教育費、寄付金が二十七万円、市制記念費、寄付金、三十五万円でございます。 繰越金が三百十二万円でございますが、これは二十九年度と三十年度にわけて、北条小学校と富崎小学校の

学校と富崎小学校の

三十年度に繰り越

された分に対する財源として、三百十二万円

予算

に計上されたわけでございます。

別に現金の繰り越し

はございせんために、調定は全然行われておりません。

以上は千円以下切り捨て、万単位でございます。
よろしく。

十九番

（先ほど）

になりまして

議会としての監査請求がありまして、多数の議員の方
がそれに同意された次第であります。私はこう――

一ぺん事務当局に伺いたいと思います。監査委員から

前述の監査報告において、先ほどすでに――

特別会計の監査も――

こんど改めて監

査委員に――

どういう方面を監査す

るうか、ちよつとわからんのでありますがお伺いしたいと思
います。

もうひとつは本日議題になったのは、主として保険料が、

いという声が市民に多いから、なんとかしてもう少し保険

料を安くする方法はないということ、で主として――

それはひとつの方法である。そして監査

委員う

その点ひとつはつきりと御

説明願いたいと思います。

事務局長（高梨清一君）これは地方自治法第九十八条の第二項によりまして、議会は監査委員に對して当該地方公共団体の事務に関して監査を求めることができるといふ規定から、保険課の一般事務監査を要求したものと……例月検査は出納の例月検査でありまして、事務監査に特別に議会が議決した場合に、監査委員が（「わがりました」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）つづいて日程第八議案第三十九号を上程いたします。

（書記朗読）

（議案第三十九号につきまして御説明

申し上げます。お手許にお配りしてございます。新
 対照表によつて御説明申し上げます。その前につけ
 加えますが、傍線が引いてあります。左側が削除する分
 でございます。傍線が右側が新たにそう入する分でござい
 ます。第五條から御説明申し上げます。本会計は昨
 年の十一月、果て医療監査による改定條文が多少ある
 りでございます。第五條は、一号二号三号四号五号六
 号七号ともに各條項の被保険者と被扶養者が一緒
 になつてゐるものを被保険者は被保険者、被扶養者は
 被扶養者に別々に改めまして、文字句の改正に止まつて
 おります。例へば第一号の削除する方が
 健康保険および船員保険の被保険者ならびに被扶養
 者とあります。健康保険の被保険者および船員
 保険の被保険者として改められております。

なお、被扶養者につきまゝでは、第五条ウ七号へと全部
持つてきてあるうてございます。

なお、第五条ウ五号のうち、医療従事者または、そ
うにあるもの以下は消してございますが、法文の解釈上多
少、漠然としておるうて、これは消した方がよからうとい
うで消したうてございます。以下第八号にございます
その他、特別の理由により療養の給付が必要がないもの
と認められたもの、これも同様削除したうてございます。
つぎは、第六条に移りますが、第一行目ウこの条例公布
の日とありますものを資格を取得した以上、というふう
に改めたりてございます。これは、条例公布の日というは
昔の条例にあったものでありますうて、これを改定した
のでございます。つぎに第三行目ウその属する世帯に
というのをその世帯に属するというふうに変更したうてござ

います。なお、この第二項の新たに被保険者となつたもの
とあります。これを削除した理由は、これは第六条の
本文で二項、三項は、第六条の本文で救済されてお
るために、この二項、三項を削つたのでございます。

第七条につきましては第七条および第八条につきまして
は、被保険者の資格の取得および喪失について、届
出の規定を整備したのでございます。第九条に移り
まして、改訂条文はいわゆるみなし世帯の取扱いに
つきまして、これを規定したのでございます。

みなし世帯と申し上げますのは、世帯主が普通共済
組合なり、保険に入っておりまして、その家族でもって、その
被扶養者とならないものは、その共済組合等に入っており
ます。世帯主をその世帯主とみなすと、国民健康保険
の世帯主とみなすというようになし世帯の改訂で

ございます。第十条につきましても、これは単に第七条および前条とありますのを第八条というふうに変更したのでございます。第十三条中の診療所、病院というのは、これは単に市の診療所というふうにして改訂したのでございます。第十四条のただし書につきましても、住民の福祉のためにこう——を設けることは、かんばしくないというふうで、——これを超えることはできないというのを削除してしまつたのでございます。第十五条の一行の診療所、病院は同じく市の診療所に改めたのでございます。第十六条の改訂につきましても、これは療養費の方でございしますが、療養——

するといふ

ことを改めまして療養費を

国民健康法および

船員保険法の規定により療養に要する費用の額を算定方法の別表の診療報酬点数表——および賦

課診療療点数表、算定額から十七条の規定により、分担金を考慮——できないというふうに

改めたうでございます。なお第二項の柔道整復師の

療養を受けたものというは第十五条の一行目から

二行目にかけて、その他のもので手当を受けたとき

はという中に含まれておりますので、これは重複になり

ますので、これは削除したうでございます。

第十七条の二行目の診療所、病院は同じく市診療所

にというふうに訂正したうでございます。第十七条の二

四項の削除する分につきましては第二十二条と重複して

おりますので、これは削除したうでございます。次に

第十八条の助産費の欄につきましては、従前は一分相当

り五百円とするというふうに書いてありまして、誰に支給す

るかわかりませんという条件が書いてございまして、これを

世帯主に支給するというふうに変更したのでございます。

第二十条の五項はいままで診療所を設置と書いてお
りませんので、これをさらにここに入れたのでございます。

つぎは第二十四条のただし書の、そう入でございしますが、賦
課制限をここにそう入したのでございます。

賦課額は一百万とするというふうに賦課総額を最高を
抑えたのでございます。つぎに第二十六条の一項と二項

の所得割の賦課基準割合は保険料総額の百分の三十
と四十とありまして、これは三十とし、資産割の百分の十
とありますので、百分の二十といたしてございます。

これは従来は四十と十というふうになっておりまして、す
けれども、これは市民税を課税標準にしている関係上
均等割が多少重複課税的になりますので、これを
を避けましてございします。つぎは、第二

八条の第二項でございしますが、新たに被保険者となつたものに
 つたものに
 算定する額と

いうのを改めまして新たに被保険者となつたものは、
 についても現行の規定に準じて算定した日割
 額にするんだというふうに改めたのでございします。

第二十九条の三項は新たにそう入ったものでございしますが、
 これは世帯主の移動に対する取扱ひの規定でございします。
 つぎの四項もこれも同じく新たにそう入ったものでございしま
 すが、これは賦課期日後に転入等によりまして納付
 義務が発生したもので、賦課基準の取り扱ひについて書
 いたのでございします。

なお、三十条の二項の欄と三項の欄につきましては、みなし
 世帯の所得割は従前はその世帯主の所得割を基準
 としておつたものでございしますが、非常に無理がござい

ますので世帯主の所得割は全然みないというふうにして
削る分でございます。世帯主の均等割と世帯主の所
得割は全部入小たい加算—ないという意味の条文でこ
ざいます。なお資産割につきま—ては従来は—

—二か—だけは考慮—た—て—でございますが、これは
一応全部資産割—みは課税対象にするというふう
改め—た—て—でございます。第三十条—につ—き—

—ては従前は雇人がいる場合は雇人が倍額支払—
つた—て—でございますが、雇人だから—つて倍額支払—
—というは非常に不合理なためにこ—条文を削除—
—まい—て雇人も同じような平等—取扱いに—
—うに改め—た—て—でございます。第三十二条—第一行目—
—目—について四銭とあるを三銭に改め—た—うは税に準拠
—た—て—でございます。同じく二行目—延滞金額

が十月末満である場合ということもやはり税にならつて
 ここにそう入った方がございます。つぎは第三十七条の一行目
 と二行目にあります。一時借入金ということにつきまゝでは、
 この条例では、当然規定できないから、ございまして、これは
 別な——条例で議決をしなければならぬので、これは
 入れませんので削除したうでございします。なお二行目の二項
 の当該関係年払いに返還は返還しなければならぬと強
 制的な処置をとったうでございします。以上簡単でござい
 ますが説明を終わります。

十一番

（一）応説明を伺ったんですが結局、われ

われ条例を審議する上に元の条例がどううになつてゐるか
 という点がわかりませんで、はなはだ不便ですが、事務局
 にお願ひするんですが、従来の税金の徴収条例、それはいた
 だいてあります。そうほかに——条例

かり版刷りでも結構でございますが、そういうものを配布していただければ、こんご審議して行く上に非常にやりいんです。そして、また訂正があつた場合は、条例を――

条例を改正したということだけを訂正して行けば結構やれると思います。かり版刷りでも構いませんが、条例を全部議員に配布することは、事実上困難であるかどうか、もし困難でなかつたら、やつていただきたいという要求を出します。秘書課長（山谷潤祖君）　ただいま御質問より、市条例規類集は、六月下旬ごろにでき上がる予定であります。今盛んに編集集中であります。

二十二番（ ）　ちよっとお尋ねします。第九条、被保険者として、資格のない世帯主、この中に具体的にわかり易く申しますと、健康保険の組合員である、その子供が被扶養者でも健康保険として、被扶養の資格がない。

こういう場合に国民健康保険に入る。そういうことですね。その賦課する場合にその世帯主はお父さんならお父さんのすべて収入、そういうものゝ税を基準にしてその一人だけにかけで行く。こういうことなんですか。

保険課長(唐沢貞太郎君) 従来はそういう場合はその世帯主の所得がたとえば子供さんが一人おりましてその世帯主とおりまゝな場合はその所得を二分の一だけを賦課しておったんでございます。ところがこの条例改正によりましてその所得は全然みなないんだというふうに改めたのでございます。これはここに残ったものは控除するということの意味でございます。

第十四番

(第十四条)

———
 ということはいつまででもいいというのですか。
 (「そうです」) います」と呼ぶ者あり
 (「それから雇人」)

世帯主に課する保険料

この雇人ですが、

雇人といひま

すか。

・保険課長(唐沢重太郎君)例えば洋服屋さん。そこに住込み
仕立人なんかそういう場合があります。

・議長(石井潔君)他に御質疑ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(石井潔君)御異議ないものと認めます。よって本案は
原案通り決定いたしました。

・議長(石井潔君)本日の臨時会はこの会をもって閉会いたしま
す。長時間にわたってご苦労さまでした。

食山司請令

